

いもち病の発生に注意し、防除を徹底しましょう！

7月に入り、いもち病の常発地域や多肥栽培圃場で、**いもち病が発生しています**。今一度、圃場をよく確認し、**防除を行いましょう**。

※注意点

特にいもち病が発生しやすい圃場は**山陰**などで朝露が乾きにくい圃場や**密植**により風通しが悪い圃場、**多肥栽培**(葉色の濃い)圃場などです。

発生が確認された場合は、早めの防除を実施しましょう。



7月11日撮影(管内圃場)

○いもち病使用薬剤一覧

薬剤体系	剤型	10a当りの散布量	使用時期
ノンプラスバリダ粉剤DL ※JA米のみ使用可	粉剤	3～4kg	収穫14日前まで
ビーム粉剤	粉剤	3～4kg	収穫7日前まで
ビームゾル	液剤	1000倍 100～150ℓ	収穫7日前まで
ダブルカットバリダフロアブル ※紋枯れ病にも効果あり	液剤	1000倍 60～200ℓ	穂揃い期まで
ゴウケツ1キロ粒剤	粒剤	1kg	出穂5日前まで
ゴウケツパック	パッ剤	10パッ	出穂5日前まで

※特別栽培米は散布回数に制限がありますので、稲作暦をよく確認して防除を実施して下さい。

イネカメムシ対策として出穂期防除を行いましょう！

福岡県内の発生状況は、一部地域で昨年以上に発生しており増加傾向となっています。管内においても**早期水稻で多数確認され**、普通期水稻においても一部地域で発生が確認されています。防除適期は**出穂期頃に1回目、穂揃い期に2回目の防除**を実施します。他のカメムシと違い、**穂が垂れ下がってからの防除では不稔粒が発生し、減収となります**。また、他の斑点米カメムシもこの方法で防除できますので、カメムシ類への対策を実施しましょう。

裏面には、「**イネカメムシの防除の手順**」を記載しています。

令和5年産水稻 イネカメムシ防除の手順

まずは農薬の準備
栽培ごよみをご確認下さい。

名称	10a当たりの使用量
エクシード 粉剤DL	3kg
エクシード フロアブル	希釈倍率2000倍 散布液量60～150ℓ
スタークル 豆つぶ	250g

7月に開催される現地講習会の資
料にて田植日ごとの予想出穂期を
確認。

品種	5月22日移植		5月29日移植		6月5日移植	
	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期
夢つし	8月1日	7月12～14日	8月4日	7月15～17日	8月7日	7月18～
	5月29日移植	6月5日移植	6月11日移植	6月18日移植	6月25日移植	7月2日移植
元氣つし	8月11日	7月22～24日	8月14日	7月25～27日	8月17日	7月28～
	ヒレカ	8月17日	7月28～30日	7月31日 ～8月2日	8月23日	8月3～

予想出穂期は積算気温による予想
です。圃場をよくご確認下さい。

2回防除を実施 農薬によって散布タイミングが違う為、ご注意ください。

○スタークル豆つぶの場合

※スタークル豆つぶは根から吸わせる薬剤の為、効果が出るのに時間がかかります。

1回目（不稔稲防止）



出穂7日から
5日前に散布

穂が見えだし
た時期

2回目（斑点米防止）



出穂期～3日後
に散布

4～8割の穂が
出穂した時期

○エクシードフロアブル・エクシード粉剤使用の場合

1回目（不稔稲防止）



出穂期に散布

4～5割の穂が
出穂した時期

2回目（斑点米防止）



出穂7～10日後
に散布

穂が出揃って
垂れ始める時期

※JAの空中散布防除を利用される場合は、1回目は各自で防除を実施します

1回目（不稔稲防止）

エクシードフロアブル・粉剤
かスタークル豆つぶを各自
散布

2回目（斑点米防止）

JA・空中散布業者より地区の世話人さん立会いのもと、
予想出穂期の7～10日後を目安に無人ヘリにてエクシー
ドフロアブルを散布致します。

JAの空中散布防除は共同防除の為、1回目の出穂期散布は
散布日に圃場によっては出穂していないなど統一が不可能な
為、2回目の出穂後7～10日に1回散布をおこないます。

★ご不明な点につきましてはJAまたは普及指導センターへお問い合わせください。